

## 分科会の記録 第5分科会 教職員の専門性に関する課題

### 【提言1 研究主題】

「教職員の指導力向上を図るための教頭の役割」  
～具体的取組と体制づくりの工夫～

【提言者】 神埼地区教頭会 神崎市立千代田東部小学校 深川 治孝

### 【協議の柱】

教職員が感じている困難さや課題について、副校長・教頭としてどのような取組や体制づくりを行っているか。

### 【協議内容】

- ・若手教員と中堅やベテラン教員が組めるよう学年等のグループ編成を工夫している。学年会は、週1回30分程度で実施しており、相談や悩みを出し合う場にもなっている。つながりが深まった、話しやすい雰囲気ができたとの声がある。
- ・中堅やベテラン教員を若手教員と組み合わせるのが理想であるが、ベテラン教員ばかりの学校、20代や1・2年目の教員が多い学校があり、難しい。教務主任や教務部と連携することで学校組織を動かしている。若手教員に安心感や安定感をもたせることを意識している。
- ・小学校は、低・中・高グループで経験年数のバランスを考え、よりよく配置するにあたり、職員の希望通りにいかないときがある。そのような時は、校長や教頭が話をし、説得している。
- ・年齢層でなく、誰と組み合わせるかを配慮している。
- ・学校運営組織を3部会制から2部会制に変更した。ミドルリーダー4人をそれぞれの部長・副部長にし、部会を運営させている。
- ・若手教員育成もだが、ミドルリーダーの育成やその年齢にあたる子育て世代へのサポートも急務である。長年の講師経験を経た新採教員も多いので、活用していきたい。
- ・若手教員は、高校の時から情報処理等を学び関わっているので、ICT関係を得意としている。そこで、得意な若手教員を中心にしてミニ研修会を行っている。ミニ研修が、若手教員にとって負担となり苦労している場面では、中堅教員がよく声を掛けており、サポートしてくれている。
- ・各教科等のサークルを作って勉強会を平日の時間外に行っている。教頭は、会をコーディネートしたり案内を隣の学校に流したりしている。
- ・共通テーマでの協議時間は職員連絡会の後に設けており、短い時間でできるものになっている。連絡事項は、掲示板をメインにしているので5分程度で行っている。校時表を見直し、放課後は20分繰り上げて時間を確保することができた。この時間で、やり甲斐・達成感をもたせることと若手の困り感を拾うようにしている。
- ・アンケートを取り、課題を見つけて解決する時間として「カフェタイム」を設けている。
- ・「ピカッと会」という若手教員育成の会を設け、校務分掌にも入れている。中堅教員のリーダー性育成にも効果を発揮している。
- ・取組のためにスーパーティーチャー以外で連絡を取ったのは東部教育事務所である。定期的に連絡を取っており、若手の成長も含めて指導を仰いでいる。

### 【指導助言】 教育センター 課長 森 義孝 氏

- ・人材育成の観点は次のことが大切と考える。
  - 若手教員の育成
    - ①経験を積ませる ②まず褒める ③しっかり聞いて安心感・信頼感を高める
  - ミドルリーダーの育成
    - ①成長できるきっかけを与える ②困っている者の力になる ③希望・励ましの声を掛ける
  - ベテラン教員の育成
    - ①ベテラン教員の得意なことを生かす ②若手教員育成に力を借りる ③お互いを補わせる
- ・幅広い年齢層との組合せを考え、話しやすい雰囲気を醸成することが重要である。